

一人で悩まず、まずはご相談ください。

札幌市内には、子どもの発達について悩みを抱える方やそのご家族への支援を目的とした行政機関や専門機関があります。お気軽にご相談ください。

【教育相談、就学相談に関すること】

札幌市教育センター（西区）

西区宮の沢1条1丁目1-10
教育相談室（受付） 011-671-3210
幼児教育センター 011-671-3454

【発達障がい者の支援に関すること】

札幌市自閉症・ 発達障害支援センターおがる（東区）

東区東雁来12条4丁目1-5
011-790-1616

【精神保健福祉に関すること】

札幌こころのセンター（中央区）

中央区大通西19丁目 WEST19
011-622-0556

【発達の遅れ、障がいに関すること】

札幌市児童相談所（中央区）

中央区北7条西26丁目
011-622-8630

特殊教育から特別支援教育への転換が行われ、発達障がいなど、通常の学級に在籍する子どもが抱える課題についても、広く知られるようになってきました。しかし、正しい理解が不十分であったり、逆に、診断名にとらわれすぎ対応が画一的になってしまうなどの傾向も見られます。大切なことは、相手との認識の違いなどがあることに気付くことだと思います。結びに、この冊子の作成にあたり、当事者の方からいただいた言葉を掲載します。

小学校から高校までの学校生活で最も苦労したのは、「友だちをどうやってつくるか」ということでした。他の人に心を開くことができず孤立する一方、人と心を通わせることや一緒に楽しむ経験に飢えていて、その現実と欲求との間のギャップに苦しんでいた日々でした。

発達障がいのある人は、その傾向の一つとして「一人でいることを好む」と言われますが、決してそんなことはないと思います。どうやって人とつき合ったらいいのか分からなかったり、人と話していても興味や関心の違いが原因で共感されにくかったり、そういった傾向が元で人より人間関係での失敗が多いのです。それで怯えてしまったり、自分を守るために積極的になれなかったりした結果、安心や避難を求めて一人でいることが多くなってしまふ…という仕組みがある気がします。つまり「一人で居たい」とか「一人を好む」と言った傾向は、そのような対人関係の困難さを処理しようとした結果、表面化してきている問題の一種ではないでしょうか。

たしかに、一人で出来る事が好きだし、一つの事に強く集中する傾向もあります。けれど、「一人で出来る＝一人でやらせておいていい」ではないと思うし、「一つの事に集中する＝それが大好き」ではない場合もあるのです。

学校の先生方が「発達障がいのある子はこういう子」といって、発達障がいの知識や対処法で機械的にその子を決めつけなくて、「一人でいるのは心配だなあ」とか「勉強はよくできるけど、どうも元気がないなあ」といった当たり前の感性を大事にして、声や気をかけていただけたらなあ、と思います。（原文のまま）